白鳥（1955）

THE SWAN

メディア 映画
ジャンル ロマンス　コメディ
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1956/06/01
公開情報 ＭＧＭ

【解説】

ハンガリーの劇作家Ｆ・モルナールの戯曲の映画化で、モナコ公妃となったケリーの引退記念作品と言ったところで、内容も大いに現実とシンクロしている。

中央ヨーロッパの某国、１９１０年のこと。皇太子アルバートの突然の来訪に驚く叔母のベアトリクスは、娘アレクサンドラを彼の嫁にして、王権から遠ざかっていた一族を盛り返すべく大張りきり。ところが、やって来た王子（ギネス）は寝てばかりで、起きても従弟たちと遊ぶのに夢中で、姫に関心を示す素振りすら見せない。が、彼は鋭く彼女の心中を見抜いていた。アレクサンドラは弟二人の家庭教師を務めるマギー（ジュールダン）が気になるのだ。なのに母は、王子の気を惹くため、マギーを舞踏会に呼び、彼女の相手をさせる。と、彼女が自分と対等に口の聞ける理想の相手と気づき始めた王子は、持ち前の征服欲も手伝って、やおら恋する二人を挑発し、姫の気持ちを乱す。結局は踊らされただけの格好となったマギーは傷心を抱え城を去り、それを見送る姫に、“白鳥は池にいてこそ白鳥であって、陸に上がれば鵞鳥だ。君は池にいるべき人なのだ”と囁く王子。

ま、権力者の論理としては至極当然のことが述べられるのだが、その前段の姫とマギーの恋の昂まりがロマンチックに運ばれすぎで、この結末を容易に受け入れることができない。一見、逆「ローマの休日」にも見えるお話なので、結末のつけ方にももう少し人間的な工夫が欲しかった。グレイス（確かに名は体を現わしている人だが）だって生まれながらの王族じゃないのだから。

【クレジット】

監督	チャールズ・ヴィダー	Charles Vidor	
製作	ドア・シャリー	Dore Schary	
原作	フェレンツ・モルナール	Ferenc Molnar	
脚本	ジョン・ダイトン	John Dighton	
撮影	ジョセフ・ルッテンバーグ	Joseph Ruttenberg	
	ロバート・サーティース	Robert Surtees	
編集	ジョン・Ｄ・ダニング	John D. Dunning	
音楽	ブロニスラウ・ケイパー	Bronislau Kaper	
出演	グレイス・ケリー	Grace Kelly	アレクサンドラ姫
	アレック・ギネス	Alec Guinness	アルバート王子
	ルイ・ジュールダン	Louis Jourdan	ニコラス・アギ
	アグネス・ムーアヘッド	Agnes Moorehead	マリア・ドミニカ女王
	ジェシー・ロイス・ランディス	Jessie Royce Landis	ベアトリクス姫
	ブライアン・エイハーン	Brian Aherne	カール・ハイシンス神父
	レオ・Ｇ・キャロル	Leo G. Carroll	
	エステル・ウィンウッド	Estelle Winwood	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ヴァン・ダイク・パークス	Van Dyke Parks
ロバート・クート	Robert Coote
ドリス・ロイド	Doris Lloyd
エディス・バレット	Edith Barrett

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.